

2010 年度第 3 回日本語教育巡回研修会：報告

第 3 回の日本語教育巡回研修会は、国際交流基金日本語国際センター専任講師、北村武士先生をお迎えし、「日本事情・日本文化を取り入れた日本語授業を考えるー教授法シリーズ『日本事情・日本文化を教える』よりー」というテーマで実施しました。

日 時：（高雄会場）2010 年 12 月 11 日（土）13：30～17：30

於）麗景酒店・2 階会議室

（台北会場）2010 年 12 月 12 日（日）13：30～17：30

於）台北事務所・文化ホール

参 加 者：台湾の日本語教育関係者（高雄）51名（台北）76名

配付資料：[こちら](#)（PDF ファイル：Acrobat Reader が必要です。）

今回の研修会は、国際交流基金日本語教授法シリーズ11『日本事情・日本文化を教える』に基づいて、3部構成で行われました。

第1部では「日本事情・日本文化の扱い方」を取り上げました。まず、所属が異なる参加者で構成したグループを作り、①それぞれが日本事情・文化をどう扱っているか②どんな活動をしているか、を話し合いました。そして、「他のグループに紹介したい具体例」等を「情報交換シート」に書き込み、会場に掲示することで、自分の授業へのふり返りと情報の共有化を図りました。

次に、「21世紀における外国語教育の方向」（“Standards for Foreign Language learning in the 21st Century”1999）の紹介があり、「生活習慣・慣習（practices）」「文化的所産・産物（products）」を観察することにより、その背後にある「人々のものの見方や考え方、価値観などの背景（perspectives）」を理解する、という、新しい文化理解教育の考え方についての説明がありました。そして、「学習者が自分で気づいたり考えたりすること」が非常に重要であるということ、課題や話し合いを通して体験しました。「学習者の気づき」を大切にする授業は、文化を知識として教える従来型の授業とは異なるものであり、参加者に強いインパクトを与えた様子でした。

第2部のテーマは「内容や素材を考える」でした。まず、日常の授業の中にどのように文化理解の視点を取り入れていけばいいかを、市販の教科書を題材に、検討しました。そして、日本の文化に触れることができる素材にはどのようなものがあるか、また、それらを教材として使用する際の長所や短所、注意点等を考えました。

次に、「日本事情・日本文化」を意識した授業のモデルとして、初級から中・上級ま

での学習段階別に、5つの教室活動例が示されました。例えば、文字を教える授業では、日本の看板の写真などを利用し、そこから気づいたことを話しあう等、活動の中に学習者自身が考える作業を組み込むことに重点がおかれていました。

第3部は「授業を計画する・評価～まとめ」として、ワークショップを行いました。課題は「日本事情を扱った教室活動を考える」。完成後、ポスター発表の方式で各グループの作品を見まわり、意見交換を行う時間が設けられました。そして最後に、評価の方法に触れ、研修会を終了しました。

参加者からは、「文化を教えるのではなく、学生に気づかせるという考え方に感銘を受けた」「情報を集める方法を教えてもらい、大変助かった」「他の先生たちとコミュニケーションする時間があって、とても良かった」等の感想が寄せられました。

<研修会の様子>



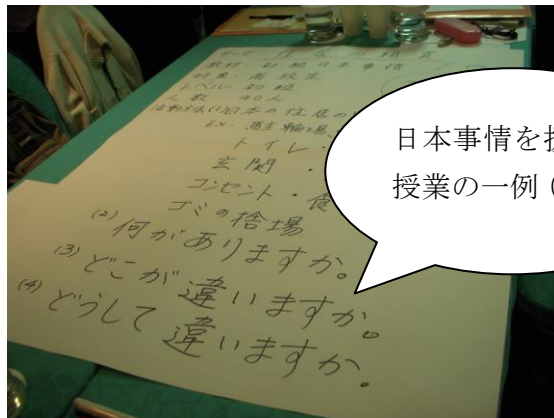
北村武士先生

(次ページに続く)

各グループを回り、意見交換中
(高雄)



日本事情を扱った
授業の一例(高雄)



会場全景(台北)



ワークショップ
前に先生から
アドバイス
(台北)